



Uru 『心得』 ドラマ『風間公親－教場0－』主題歌
～深く深く 弛みない志を～



子どもの権利擁護委員 関谷 道夫



しっとりとした Uru の歌声が始まります。「たゆみ」「こころざし」の言葉が緩んだ心を触発します。どこまでも他人に優しく、自分に厳しいストイックの塊のような歌詞で、人生に真正面からひた向きに立ち向かう姿を描き出しています。

YouTube でよく聴くのは、ミュージックビデオ (MV) の “【Official】Uru『心得』フジテレビ系月9ドラマ『風間公親－教場0－』主題歌” です。剣道で優勝を目指す幼馴染でライバルの二人の女子高校生の物語です。伸び悩む友が、道路のベンチでうつむいている時、失意の気持ちを分かりながらも、声をかけずに、立ち去っていく情景が印象に残っています。「自分の力で立ち上がりなさい」「あなたなら乗り越えることができる」「私はあなた以上に努力する」のメッセージを発していました。高校生の心の微妙な彩が描かれています。一曲の短い時間の中に、青春の一コマが凝縮されて、じっくりと心が沸き立つ MV です。

一筋流したその涙もまた
今日を生きる希望
あなたが信じてきたもの 忘れないで
失うものあれば必ず見つけられる光もある

本来は、フジテレビ系ドラマ「風間公親－教場0－」の主題歌で、ドラマのエンディング（エンドロール）にそっと流れてきます。

ドラマは、神奈川県警本部の通称“風間道場”の指導教官・風間公親とキャリアの浅い若手刑事との容赦のない闘いの物語です。「事件現場自体が教場」と諭し、OJT型（On the Job Training：実際の現場で仕事を学ばせる）の捜査手法で、新人刑事に事件捜査の基本を叩き込んでいきます。

冷徹なまでの観察眼をもつ風間公親を木村拓哉が好演しています。若手刑事役も、赤楚衛二、新垣結衣、北村匠海、白石麻衣、染谷将太など多彩でした。「バカ塗りの娘」の堀田真由も面白い役で出演していました。



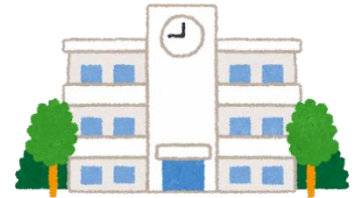
我が身をつねって人の痛さを知れ
瞼を焼いた後悔も
全てこの道 歩いていく術として
その身に纏う^{ひだ}襷となる

木村拓哉の相貌（※1）と風間公親の冷徹なイメージとが重なって、鈍く光っていました。若手刑事とは一定の距離感を保ちながら、愛のある厳しい姿勢で見守っているのが印象的です。

「ここは教場ではない。手取り足取り教えるつもりはない」「自分で考えろ」「答えがでなかったら交番に帰れ」「残念だが君には見込みが無い」「人にやさしくしたいなら、今すぐ刑事を辞めろ」など、妥協のない・鋭角な・甘えを排除した言葉が、指導者と指導される側との間で飛び交います。決して微笑ましい穏やかな風景ではありません。「生と死」が交差する職場であることをお互いに良く知っています。根底に、指導教官に対する信頼感がありました。

これが、実際の学校や職場で展開されたらどうなるでしょう？

最近では、教育する側とされる側、指導する側とされる側の関係性が厳しく問われています。「子どもの権利相談センター」にも、学校・教師・親・スポーツ指導者の不適切な指導に対する不満が持ち込まれます。指導者がこれまで体験してきた手法を漫然と続けることはできません。「**厳しい指導**」はパワーハラスメント・セクシャルハラスメント・モラルハラスメントと受け取られる可能性があります。「**自分で考えろ**」も、スマホで簡単に情報を得てきた Z 世代からはタイプ（タイムパフォーマンス／時間対効果）」が悪い、もっと効率の良いプログラムで教えろ！と反発されるかもしれません。



心理臨床の領域でも、「優しいカウンセリング」が広がっていますが、見逃せない問題に目を逸らすことなく、課題に真正面から**対決**していこうとする厳しさが必要だと思っています。それは他者そして自分**対峙**することでもあります。

いつか、クライアントに向かって『**自分で考えろ！**』と言ってみようと考えています。

今日を生きる希望
あなたの中にある光離さないで
描き続けるなら その場所へと
必ず道は繋がっていく

（次回は「新しい学校のリーダーズ」です。）

※1 相貌（そうぼう）…顔のありさま。人相。容貌。